

氏名	ライカイ・ジョンボル
職位	COE 研究員
<p>研究概要</p> <p>2009年4月1日に本COEプログラムに研究員として着任以来、次の研究活動を行ってきた。つまり、非西欧文化圏においてもっとも先端的な地域であり、親密圏の変容がもっとも議論されている東アジアと東ヨーロッパを事例とし、家族に関する独自理論・概念の発掘・発展を目指す知識社会的なフィールドワーク研究を目的とし、東アジア社会（中国、台湾、韓国）と東欧社会（ハンガリー）において知識社会的フィールドワーク研究を行った。具体的には、中国・上海社会科学院とのネットワークを中心に、台湾・中央研究院社会学研究所、韓国・ソウル国立大学との連携をとり、また東ヨーロッパではハンガリー科学院社会学研究所と連携をとりつつ、各国の学問的中心地におけるデータ・資料・テキスト収集と研究者への聞き取り調査（ヒアリング）を行った。このような研究計画にそった調査を通して、まず、各社会における家族をはじめとする親密圏と公共圏の同時的変化をもっとも明確に特徴づける（共通した）現象として、「家族主義」に注目する必要性が明らかとなった。家族（親密圏）と外世界（公共圏）の関係性に関わる家族主義の現象は、東アジア・東欧社会にある程度、共通のものであると同時に、実態としても概念としても多くの多様性を含んでいる可能性があった。ゆえにその現象・概念を中心とした国際比較研究は、今まで家族の内部過程に注目していた西欧中心の家族社会学研究・テキストを問い直す可能性を秘めていると考えられたからである。このように2009年度の研究では、とりわけ「家族主義」に対する各社会での学術世界の意識（＝「家族主義」の概念化・理念化）、学術的に用いられる「家族主義」という言葉に、どのような顕在的・潜在的意味が付いているのかを検討課題とした。各社会の研究機関で蓄積した学術論文等とおして、「家族主義」概念の差異が具体的に示されることによって、その概念を今後、共有化していく可能性が開かれると思われる。</p>	
<p>業績リスト</p> <p>論文・ワーキングペーパー：</p> <ol style="list-style-type: none"> 「家族の比較文化論」井上真理子編『家族社会学を学ぶ人のために』、世界思想社、51-66頁、2010年 “Discourse and Family: Difficulties in Textbook Writing in Non-Western Family Sociology”, Proceedings of the 2nd Next-Generation Workshop, pp. 194-208, 2010. 「ハンガリー、韓国、台湾、中国の学術論文における「家族主義」概念の比較研究」2009年度GCOE次世代研究ユニット研究成果 <p>報告書：</p> <ol style="list-style-type: none"> “Paradigm Shifts in Non-Western Family Sociological Textbooks? Taking Hungary, China, Taiwan and Japan as Case Studies” (American Sociological Association 2009 Annual Meeting Archive). 「(ポスト) 社会主義近代に伴う「空虚な個人化」問題の(再) 検討——ハンガリーを事例として」、国際共同研究「公共圏と『多元的近代』の社会学理論」研究会報告書 	